

2) 日本なし

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～300ℓ」等と記載した10a当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病虫害名	防除適期	防除方法	備考
赤星病	4月上旬 4月中旬～落花直後 落花後～5月下旬 随時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中間宿主（びやくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。 ○ 次のDMI剤いずれかを散布する。 アンビルフロアブル インダーフロアブル オンリーワンフロアブル サルバトーレME サンリット水和剤 スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージDF ラリー水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル アミド系剤 フルーツセイバー カナメフロアブル アクサーフロアブル ○ なし園周辺にある中間宿主（びやくしん類）を伐採する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ びやくしん類にバシタック水和剤75を散布する。 ○ 赤星病の発生が予想される場合とは、付近にびやくしん類がある場合、開花直前の散布が順調に行えなかった場合である。 ○ DMI剤及びDMI混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。 ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
黒星病	落葉期間（11～3月） 収穫後～開花前 発芽前 脱ぼう直前～4月中旬 開花直前～落花前 5月中旬～7月中旬	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園地は清掃し、被害枝を剪除する。 ○ 落葉処理を実施する。 ○ ICボルドー48Qを散布する ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アルタベールフロアブル 石灰硫黄合剤 ○ 芽基部病斑のある株を摘み取り適切に処分する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 6-12式ボルドー液 オキシラン水和剤 ○ 次のDMI剤またはDMI混合剤のいずれかを散布する。 アクサーフロアブル アンビルフロアブル インダーフロアブル スコア顆粒水和剤 トリフミン水和剤 マネージDF ラリー水和剤 セルカデイスDフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル ファンタジスタ顆粒水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 オキシラン水和剤 キノンドーフロアブル キャプレート水和剤 チオノックフロアブル デランフロアブル トレノックスフロアブル ミギワ20フロアブル アミド系剤 カナメフロアブル バレード15フロアブル フルーツセイバー フルーツガードWDG ベルコート水和剤 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICボルドー48Qは、高温時に散布すると銅による薬害を生じる恐れがある。 ○ DMI剤及びDMI混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。 ○ アミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病害虫名	防除適期	防除方法	備考
黒星病	5月中旬 ～7月中旬 収穫後 (特散)	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ユニックス顆粒水和剤47 ○ 黒星病の発生が多い場合は、収穫後に次の薬剤いずれかを散布する。 オーソサイド水和剤80 ベルコート水和剤	○ 左記の特散を行う場合、混植園では、各薬剤の収穫前日数に注意する。
黒斑病	落葉期間 (11月～3月) 発芽前 脱ぼう直前 ～4月中旬 開花直前 ～9月上旬	○ 園地を清掃する。 ○ 被害枝を剪除する。 ○ 次の薬剤を散布する。 アルタベールフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 6-12式ボルドー液 オキシラン水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル ストロビードライフロアブル アリエッティC水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オキシンドー水和剤80 オキシラン水和剤 キノンドー水和剤40 キノンドー水和剤80 チオノックフロアブル トレノックスフロアブル デランフロアブル ポリベリン水和剤 ユニックス顆粒水和剤47 ロボドー水和剤	○ 有袋栽培では、小袋かけ前に有機銅剤等を十分に散布し直ちに被袋する。 ○ ロボドー水和剤は、連続使用を避け、年間2回以内の使用とする。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止)
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや、被害枝を剪除して適切に処分する。 ○ 病患部を削り取った切口に次の薬剤いずれかを塗布。 トップジンMペースト バッチレート	○ '幸水'は胴枯病に弱い品種なので注意する。新水、八雲、'豊水'は中程度。
白紋羽病	植付時 休眠期	○ トップジンM水和剤に根部を浸漬し、直ちに植え付ける。 ○ 樹幹周辺を掘りおこし、被害根を除去した後、落花20日後までにトップジンM水和剤を灌注する。 ○ フロンサイドSCを灌注する。	
輪紋病	落葉期間 (11月～3月) 6月中旬 ～8月上旬	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時に被害枝を剪除する。 ○ 枝病斑を削り取りトップジンMペーストを塗布する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストロビルリン系剤 アミスター10フロアブル スクレアフロアブル ストロビードライフロアブル アミド系剤 フルーツガードWDG ストロビルリン系・アミド系混合剤 ナリアWDG オキシラン水和剤 キノンドー水和剤80 キャプレート水和剤 ダイパワー水和剤 デランフロアブル ベルコート水和剤	○ 薬剤は、枝幹及び果実に十分かかるように散布し、被害枝は園内に放置しない。 ○ ストロビルリン系剤及びストロビルリン系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止) ○ アミド系剤及びアミド系混合剤の使用は、合わせて年2回までとし、連用しない。(耐性菌出現防止)